

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

Smaller SMV Signに基づく急性腸間膜虚血症に対する治療戦略

1. 研究の対象および研究対象期間

2010年1月から2019年12月までに主研究機関（昭和大学病院）及び共同研究機関（日本赤十字社 山梨赤十字病院、社会医療法人愛宣会 ひたち医療センター、慶仁会 城山病院、社会医療法人社団 順江会 江東病院、横浜未来ヘルスケアシステム 戸塚共立第一病院、社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院、医療法人幕内会 山王台病院、川崎医療生活協同組合 川崎協同病院）で急性腸間膜虚血症と診断された症例です

2. 研究目的・方法

急性腸間膜虚血は塞栓症・血栓症・循環血液量減少により腸管血流が途絶した状態で、多臓器不全に陥ります。腸管が可逆性の虚血状態であれば血管内治療（IVR）、不可逆的な虚血状態であれば緊急手術が選択されます。過去の報告ではCT所見、白血球数、AST、CPK、LDH、代謝性アシドーシスの進行、発症からの経過時間等が腸管虚血の評価因子として報告されています。しかし評価の上で患者背景等、交絡因子の影響も考慮する必要があり、治療選択に難渋することが多いです。近年、上腸間膜動脈領域の血流評価方法として smaller SMV sign (SMV 径/SMA 径 <1 ; 上腸間膜動脈領域の虚血を示唆) が知られています。

先行研究として、対象症例を2010年から2019年までに昭和大学病院で経験した上腸間膜動脈領域の急性腸間膜虚血症例を対象とし、症例を血管内治療（IVR）後に軽快した群、緊急手術後に軽快した群、在院死群の3群に分け、初診時のSMV 径/SMA 径比・転機を評価項目とし検討しました。

対象症例は12例であり、IVR 後軽快退院群、緊急手術後に軽快群、在院死群の3群の同比は1.24(1.21-1.26)、1.12(0.58-1.51)、0.65(0.49-0.73)でした。同結果より、急性腸間膜虚血症においてSMV 径/SMA 径比 <1 の症例では不可逆的腸管虚血が進行していると考えられ、緊急手術が推奨され、更に、同比が量的変数として予後規定因子となる事が示唆されました。しかし、同研究では症例数が

少なく、更なる症例を蓄積した上で、統計学的な検討が望まれました。

今回、昭和大学病院を主研究機関、同院下記関連機関を共同研究機関とし、他施設共同研究を行うこととしました。先行研究と同様の検討を多施設共同研究として行う事で症例数の確保が可能となり、対象症例の偏りが回避されることが想定されます。更に、IVR 後軽快退院群、緊急手術後に軽快群、在院死群の3群間のSMV径/SMA径比に統計学的な有意差が得られ、今後の治療指針決定の一助となる事が期待されます。

研究期間

医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、病院長の研究実施許可を得てから2025年12月まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

各施設で2010年1月から2019年12月までに急性腸間膜虚血症と診断された患者のデータ(患者背景(診断時年齢、性別)、初療時診断名、初療時CT上閉塞部、SMV径、SMA径、基礎疾患、治療法、転機)を各施設の診療情報管理室から抽出します。

4. 外部への試料・情報の提供

各施設で2010年1月から2019年12月までに急性腸間膜虚血症と診断された患者のデータを各施設の診療情報管理室から抽出し、主研究機関である昭和大学病院で集計・統計学的解析検討を行います。

5. 研究組織

昭和大学病院を主研究機関、同院関連機関(日本赤十字社 山梨赤十字病院、社会医療法人愛宣会 ひたち医療センター、慶仁会 城山病院、社会医療法人社団 順江会 江東病院、横浜未来ヘルスケアシステム 戸塚共立第一病院、社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院、医療法人幕内会 山王台病院、川崎医療生活協同組合 川崎協同病院)を共同研究機関とし、他施設共同研究を行います。

6. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

所属: 昭和大学医学部外科学講座消化器・一般外科部門 氏名: 大野 浩平
住所: 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号: 03-3784-8541

研究責任者: 村上 雅彦
研究代表者: 大野 浩平